

1 主題名 みんな生きている 3-(1) 生命尊重

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

内容項目3-(1)は、「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にす。」ことをねらいとしている。低学年では、生きていることを実感し、そのことに喜びを見出すことによって自らの生命の大切さを自覚することをねらいとしてきた。現実性をもって死を理解できるといわれている第3学年においては、生き物のけがや死から生命の尊さを感じ得ていくことが大切である。しかし、家族の在り方や社会の変化に伴い、生命の重みを身近に感じられる機会が減少し、生命について深く考える機会は少なくなった。また、生命を軽く見たり軽く扱ったりする事件等も数多く起こっている。そこで、好き嫌いにかかわらず生き物すべてが持っている「たった一つの命」の尊さについて深く考えさせたい。また、自らの「たった一つの命」の価値を再認識することで、自尊感情を高め、よりよく生きようとする前向きな態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

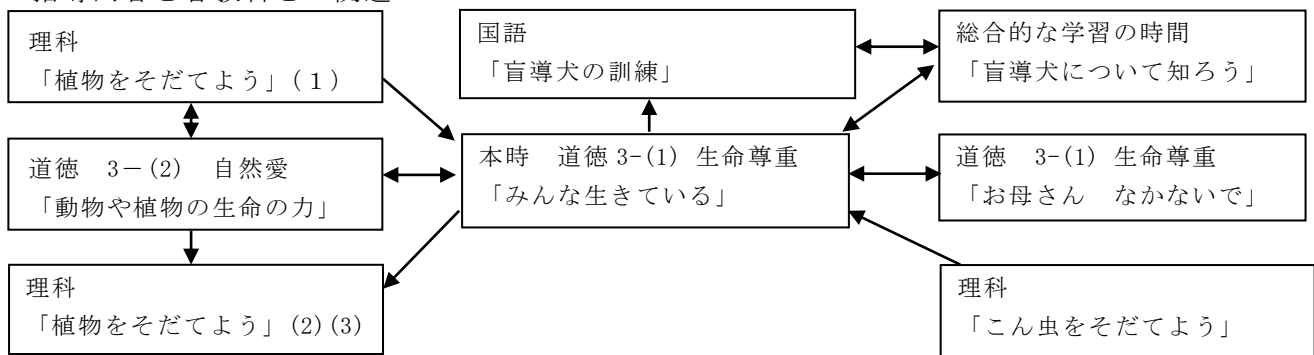
本学級の児童は、動植物が好きである。理科では、ホウセンカやモンシロチョウの幼虫を育てたり、観察したりすることに興味を持って取り組んでいる。しかし、段々と世話がおろそかになり、植物を枯らしたり、幼虫に餌を与えるのを忘れてしまったりすることがあった。また、嫌い(苦手)な動物がいるかどうかの事前調査を行ったところ、*人が「いる」と答え、*人が「いない」と答えた。*人の理由のほとんどが「気持ち悪い」「汚い」等であった。「同じ生き物」として考えている児童は*人であった。児童は、嫌い(苦手)な生き物に出会ったらどういう行動をするかを問いかけ、本時のねらいへとつなげたい。

「動植物」についてのアンケート	*月*日(*人調べ)
1 動植物は好きですか。 好き*人, 嫌い*人	
2 嫌いな(苦手な)動物はいますか。 いる*人, いない*人	
3 嫌いな理由はなんですか。(複数回答) 気持ち悪いから*人, 怖いから*人, 汚いから*人	
4 きらいな動物がいない理由はなんですか。 みんな同じ生き物だから*人, 好きだから*人, かわいいから*人,	

(3) 資料について(資料名:「ヒキガエルとロバ」出典名:「わたしたちの道徳」文部科学省)

本資料には、アドルフたち3人の男の子が登場する。学校の帰りにヒキガエルを見つけ、石を当てようと投げたところへ、荷車を引いたロバがやって来る。ロバは足下にいる傷ついたヒキガエルに気が付く。農夫からムチで叩かれながらも、荷車でヒキガエルをひき殺さないように足をふんばり、ヒキガエルのいるくぼみをよけて、通り過ぎる。その一部始終を見ていたアドルフたちは、ロバの行動に心を揺り動かされるという話である。場面構成が分かりやすく、登場人物の心の動きもとらえやすい資料である。また、この3人の行動の基となっている、嫌なものを排除しようとする心は、多かれ少なかれ、誰もがもっているものであると言える。このことに気付かせ、その上で、本時のねらいに迫っていきたい。

3 指導内容と各教科との関連



4 本時の指導

(1) ねらい

生命の尊さを感じ、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

(2) 資料

読み物資料，ワークシート

(3) 展開

	主な活動と発問 ●中心発問	予想される児童の反応	支援の手立て ◎個に対する配慮や支援
導入 5分	1 嫌い(苦手)な生き物のことについて話し合い、本時の課題を確認する。 もし、目の前ににがてな生き物があらわれたら、どうしますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・触れない。 ・気持ちが悪い。 ・カエルは苦手。 ・見たら逃げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒキガエルの写真を見せる。 ・「嫌い(苦手)な生き物」を想起することで、課題を自分のこととして捉え、課題解決に向けた意識を高める。
展開 25分	2 資料「ヒキガエルとロバ」を読んで話し合う。 ○アドルフたちは、どのような気持ちからヒキガエルに小石をぶつけていたのだろう。 ●ヒキガエルが助かったときアドルフたちはどう思ったでしょう。 ○息を小さくしているヒキガエルに、アドルフたちは、なんと声をかけたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・あっちに行け。 ・ぶつけてやる。 ・いじわるしてやろう。 ・ロバはえらいな。命を大切にしているな。 ・ロバはカエルの命を守ったんだ。 ・ぼくたちはカエルに悪いことしたな。 ・たった一つの命なのに。 ・カエルさんごめんね。 ・みんな同じ命だから大切にしないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・嫌いな生き物を排除しようとする気持ち、残酷な気持ち、面白半分の気持ちなどを出させ、過去の経験と比べながら、誰でも似たような気持ちを持っていることに気付かせる。 ・ロバが置かれている状況を押さえることで、大変な思いをしてもロバがカエルを助けようとしたのはなぜかを考えることができるようにする。 ◎「えらい」「すごい」などで終わっている児童には、何がすごいのか考えるよう助言し、ロバが命を大切にしたい気持ちに気付けるようにする。 ・「ごめんね」と声を掛けた児童には、何に対してと問い直すことにより、どの命も大切にしようという思いを表現できるようにする。
終末 15分	3 課題について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・そっとしておく。 ・みんな同じ命を持っているからやさしくする。 ・たった一つの命を大切にしたい。 ・苦手な生き物にも優しくしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さや、生命あるものを大切することについて、自分はどのように考えるのか整理する。

5 評価

- ・生命の尊さを感じ、生命あるものを大切にしようとする気持ちを持てたか。